

第5 2回地域連携手帳委員会（略称：手帳委員会）

日時 令和4年6月16日(木) 13時30分～14時

会場 新津医療センター病院 大会議室

参加者 13名

1. 連携手帳の現状と問題点

- ・患者情報伝達ツールとして手帳やSWAN ネットなどがあるが IT はなかなか進んでいない。

秋葉区では他地区と比べて手帳の利用は進んだが、一方で自分が利用したいページのみとし他ページを削除する人もいる。

手帳の意義が浸透されていない。

今一度手帳の意義について説明する文書などがあると良いか。

2. 連携手帳の発展的活用

- ・5月16日、新潟市で開催された認知症懇話会で配布された資料の中でむすびあい手帳と上越のにっこり手帳が紹介された。

各委員から様々な意見が出たが要約すれば以下のとおり

- ・むすびあい手帳については生活についてを基本とし、ケアマネが聞き取りやケアプランに使用する形となっている。

ケアマネが聞き取る内容と重複することが考えられる。

- ・にっこり手帳は救急現場では有効。

ただし積極的治療、過度な治療とはどこまでいうのか曖昧

利用者本人の思いと支援してくれる方の思いがあるのはよい。

イラストが心を和ませる。

まとめ

そもそも救急の場面と日常とでは ACP そのものは別に考える必要がある。

手帳に何らかの形で意思を載せることに委員会としては賛成である。

次回、委員会の前にページ案をお送りするので、各自の意見を用意して頂くこととする。

4 その他

次回は令和4年9月15日（木）13時30分より開催

会場は新津医療センター病院 西3大会議室

以上